

日本一暑い街・館林

日本の市の数は790（平成26年4月時点）ある。13年前までは695であったから95市も一挙に増えたことになる。したがって新しく誕生した市名がどこにあるのか、皆目見当のつかない所もたくさんあるように思う。よほど特徴がない限り覚えてもらえない。

神戸から東北地方に行く途中の宿泊場所で悩んだ。高速道路に近く出来る限り目的地に近付こうと思った。群馬県の東南部に館林市はあった。ここは今から約2万年前に最初の人々が住み始めたとされている。そして2年前の人口は76,678人。取り立てて特徴がある街のように思えなかった。歴史を紐解けば徳川四天王のひとり、榊原康政をはじめ第5代将軍徳川綱吉が城主だった時期もあったとか。また有名な童話に出てくる「分福茶釜」など、とにかく古い街であることはわかった。

夜6時過ぎにホテルにチェックイン。夕食を求めて1927（昭和12）年に建てられたレトロ感のある木造駅舎のJR館林駅方向へ向かった。メインストリート？には5~6件しかない焼き鳥、中華、居酒屋等、一軒ずつ入ってみたが全て満員で断られる。驚きであった。

仕方なく路地に入ったところに赤提灯の店を見つけた。5~6人が入るカウンターの小さな店であった。隣り合わせた客とすぐに打ち解け酒は大いに進んだ。館林に住む彼らが熱く語ってくれた。「この夏は暑いよ〜、とにかく日本一暑い街だからね」と。平成19年8月16日には40.3°に達したとのこと。人間の体温ですれば高熱状態である。食べて飲み語り歌い楽しい夜となった。勘定を見てその額の高さに、一変に身体中が熱くなり目舞いをお越しそうになった。でも館林の熱い夜の出来事は忘れられない思い出となった。

撮影 2014年夏

